

4. 史跡及びその周辺の利用実態調査

(1) 平城宮跡の利用者数

平城宮跡全体の利用者数は「特別史跡平城宮跡 平成 15 年度秋季および冬季利用実態調査報告書」において約 98 万人と推計されている。

最新の主要施設の利用者数は資料館で 7.5 万人 (H18 年度)、遺構展示館で 5.1 万人 (H16 年度)、東院庭園 3.0 万人 (H16 年度) となっている。また朱雀門では開放型施設であるため正確な利用者数を把握することはできないが、「特別史跡平城宮跡 平成 15 年度秋季及び冬季利用実態調査報告書」の四季 8 回の利用状況調査によると、3 施設よりも朱雀門の利用割合は高く、3 施設以上の利用者数が見込まれる。

資料館、遺構展示館の利用者数の平成 7 年から 17 年までの推移をみると、平成 10 年の朱雀門と東院庭園が復原以前は、ともに 6.0 万人～6.5 万人であった。「朱雀門・東院庭園復原記念事業 (H10)」時で資料館 12 万人、遺構展示館 8 万人と利用者はもっとも多くなり、以降、資料館で 7～8 万人、遺構展示館 5～7 万人で推移している。東院庭園は平成 10 年度の復原完了時が 13 万人ともっとも多く、11 年度 5 万人、12 年度 4 万人と減少し、近年では 3 万人程度で推移している。

表IV-1 平城宮跡資料館等入館者数

年度	平城宮跡資料館	遺構展示館	平城宮跡資料館・遺構展示館特別公開		東院庭園	備考
			春	秋		
昭和 45	13,836	49,805	1,365	14,747	—	
46	23,777	47,953	2,665	11,326	—	
47	26,639	52,127	4,498	12,721	—	
48	34,249	63,552	1,961	8,002	—	
49	38,636	63,155	7,615	16,645	—	
50	37,279	46,675	4,815	12,162	—	
51	48,776	60,746	5,963	20,425	—	
52	10,260	88,635	5,938	23,610	—	
53	49,729	53,328	8,119	12,898	—	
54	39,503	42,205	6,601	11,460	—	
55	40,543	89,103	7,266	18,596	—	
56	72,658	104,181	10,685	19,096	—	
57	69,413	59,658	8,994	11,566	—	
58	65,322	46,515	14,245	18,925	—	
59	73,916	45,177	14,685	22,035	—	
60	73,024	53,320	9,149	17,467	—	
61	61,927	60,617	11,600	8,832	—	
62	53,411	68,030	35,469		—	
63	122,062	110,634	—		—	
平成元	75,352	84,183	—		—	
2	66,853	76,088	—		—	
3	72,226	76,257	—		—	
4	64,009	69,795	—		—	
5	61,700	69,574	—		—	
6	56,914	53,622	—		—	
7	62,922	66,555	—		—	
8	61,506	64,645	—		—	
9	62,781	60,678	—		—	
10	120,720	80,796	—		130,798	「朱雀門・東院庭園復原記念事業(平城京'98)」10.4.17~4.26※1
11	78,672	72,785	—		52,516	
12	75,469	54,812	—		39,350	
13	78,957	59,311	—		32,773	
14	68,120	47,614	—		30,298	
15	73,007	59,446	—		34,759	
16	66,802	50,806	—		30,166	
17	75,267	42,319	—		27,493	※2
18	77,560	—	—		—	※2

※1：朱雀門約392,000人（記念事業以外は計数せず）、東院庭園約64,000人（平成10年度内数）

※2：遺構展示館、東院庭園は文化庁所管の公開施設のため、平成18年2月からは人数報告を受けていないので不明。

資料：奈良文化財研究所

(2) 利用内容

平城宮跡という歴史的な特徴を有する公園であるにもかかわらず、歴史見学や観光としての利用のほか、競技・軽スポーツ、散歩や休憩などの利用も多く見られる。

特徴的な利用としては、池の周辺では野鳥観察が行われており、水路でのザリガニ釣りや草地での虫取りや植物観察など、豊かな自然と親しむ活動が行われている。

グラウンドでは、終日、サッカーや野球などの団体スポーツ利用が行われている。

通勤・通学や買い物などの通り抜けと思われる利用も多い。

朝夕の時間帯は、散歩や犬の散歩、ウォーキングやジョギングなどの健康運動系の利用に占められ、このほとんどが園路で行われている。

また、団体での利用も多く、学校団体は遠足や修学旅行のほか、近傍小学校における郷土学習や環境学習等の日常的な活動にも利用されている。一般観光団体の利用は、奈良観光のついでとして立ち寄っているが、朱雀門を中心とした短時間の立ち寄りが多い。



図IV-1 平城宮跡の多様な利用状況

(3) 園路交通量

1) 調査概要

①調査の目的

平城宮跡の利用状況に関する既往調査（「特別史跡平城宮跡平成 15 年度秋季及び冬季利用実態調査報告書（平成 16 年 2 月）」）に基づく推計では、宮跡利用者の半数近くが通り抜け利用と想定されている。このため、本調査では、

○現在の宮跡内主要園路の交通量・交通手段等を把握することで、適切な動線計画（園路配置、園路幅員等）の検討に資する。

○宮跡内の自転車等の通り抜け実態（通過箇所や通過量、通過時間帯等）を把握することで、通り抜け交通対策の検討に資する。

ことを目的に宮跡利用の実態を把握し、今後の計画検討の基礎データとして活用を図ることとした。

②調査手法

宮跡内園路の 26 地点に調査員を配置し、各地点を通過する利用者数のカウントを行った。カウントにあたっては「時間帯」「方向」「交通手段」を記録するとともに、目視により属性（性別、年齢階層）を記録した。

③調査項目

○時間帯別交通量（30 分毎集計）

○方向別交通量

○手段別交通量（徒歩、自転車、バイク）（徒歩とジョギング・ランニングは区別する）

○性別

○年齢階層

④調査地点

調査地点を、次図に示す。

交通量調査・調査地点



図IV-2 園路交通量調査・調査地点図

⑤調査日時及び状況

通り抜け利用の目的としては通勤・通学や買い物利用等が想定され、曜日による発生の違いが予想されたことから、調査は平日と休日の各1回実施した。また、調査時間帯は、両日ともおおむね日出～日没までの7:00～18:00とした。

調査実施日とその状況は以下の通りである。

表IV-2 園路交通量調査・調査日の概要

	平日調査	休日調査
実施日	平成20年2月6日(水)	平成20年2月24日(日)
調査時間	7:00～18:00	7:00～18:00
天気	曇のち一時雨	曇時々晴れ一時雪
気温(最高/最低)	7℃/－1℃	5℃/－3℃
特記事項	<p>(気象) 日射しなく寒い一日。夕方、通り雨。</p> <p>(利用者) 帝塚山小学校の児童及び父兄計約500名、耐寒訓練(持久走)のため来場。9時前～11時前まで滞在。</p>	<p>(気象) 早朝に降雪。調査開始時は、周辺道路の路面もほぼ全面的に積雪・凍結した状態。</p> <p>時々日は射すものの風が強く、時折雪が交じる。</p>

2) 調査結果

2-7) 概況

①カウント数

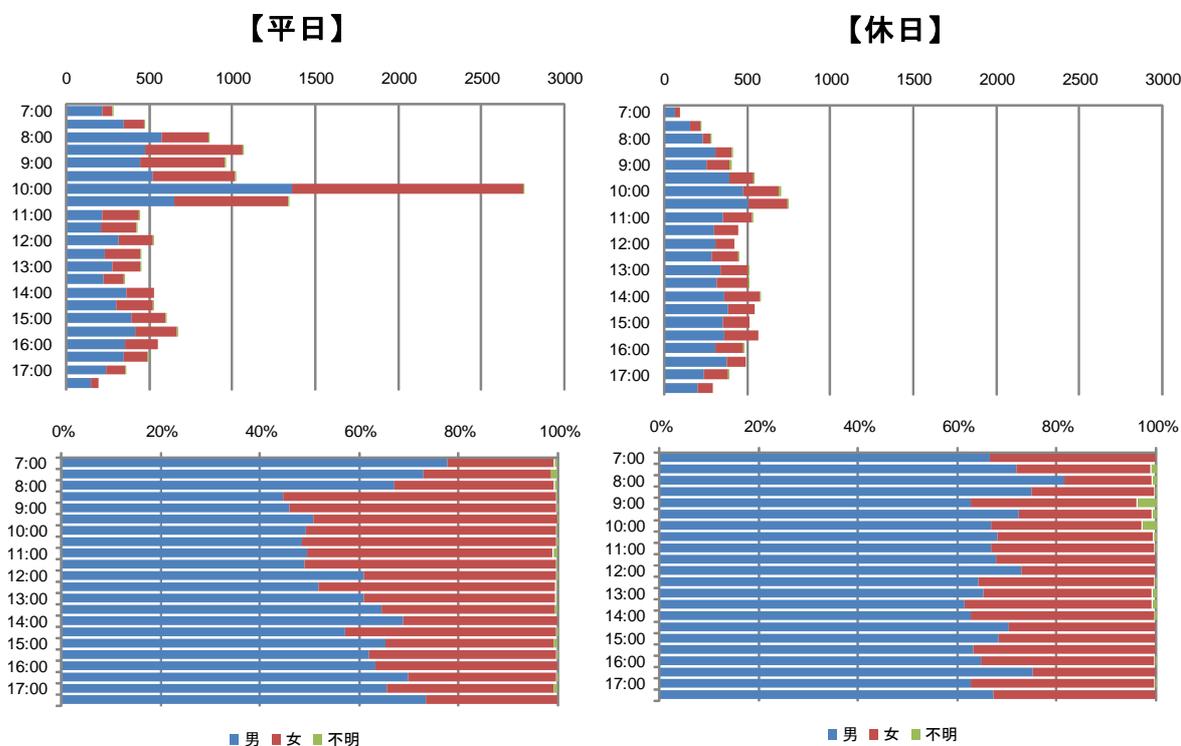
平日のカウント数は 15,209 人であり、休日のカウント数 10,044 人を大きく上回る結果となった。

これは、休日の調査当日朝の冷え込みが厳しかったこと、また昼間になっても気温が上がらなかったことなどが原因として考えられる。

②性別

平日利用者の男女比はおおむね 6 : 4 の比率で男性が多く、平成 15 年度調査時とほぼ同じ比率であった。

一方、休日では男性の比率が 70%程度となり、やや高い結果となっている。

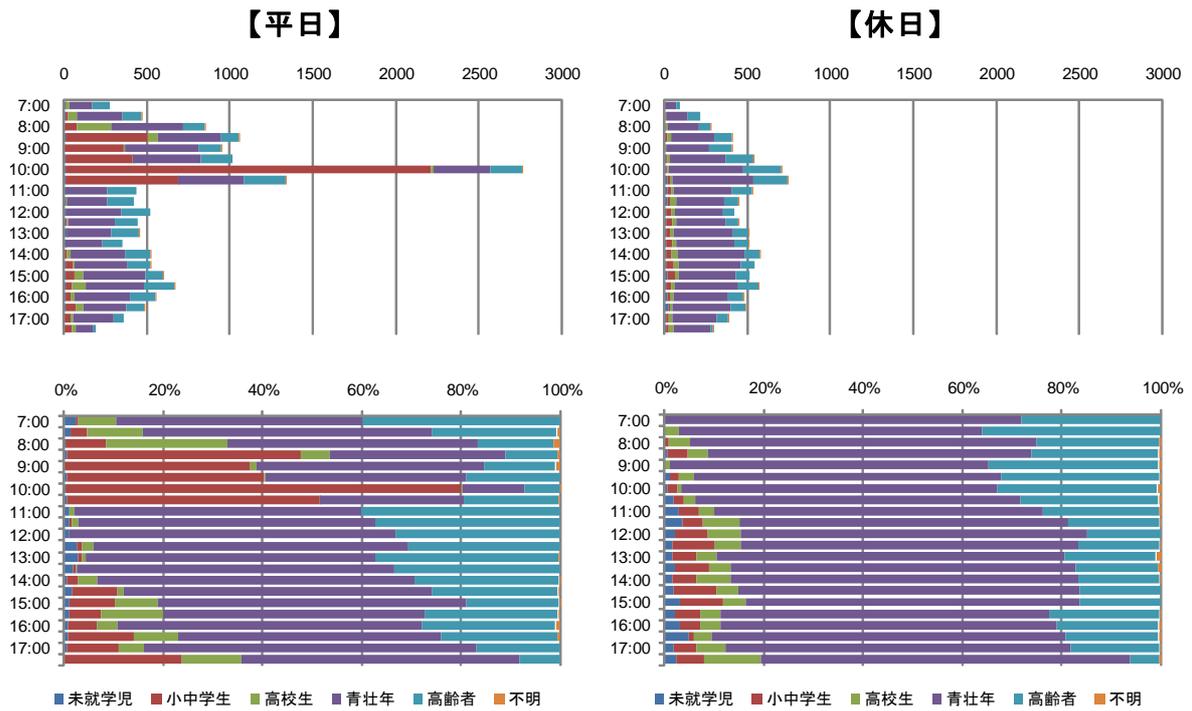


図IV-3 性別別カウント数

③年齢階層

平日利用者の年齢階層は、小学生の団体利用があったことを反映して、8時台後半から10時台後半にかけて小中学生が人数・比率ともに高い割合を占めている。それ以外の時間帯では、青壮年・高齢者が各時間帯を通じてコンスタントな利用状況を示している。また、7時台～8時台前半と15時以降に高校生の利用がまとまって見られる。

休日の利用者では青壮年層が最も多く、カウント数全体のほぼ2/3を占めている。利用者全体では、10時台と14時～15時台にかけての時間帯がもっとも滞留の多い時間帯となっている。



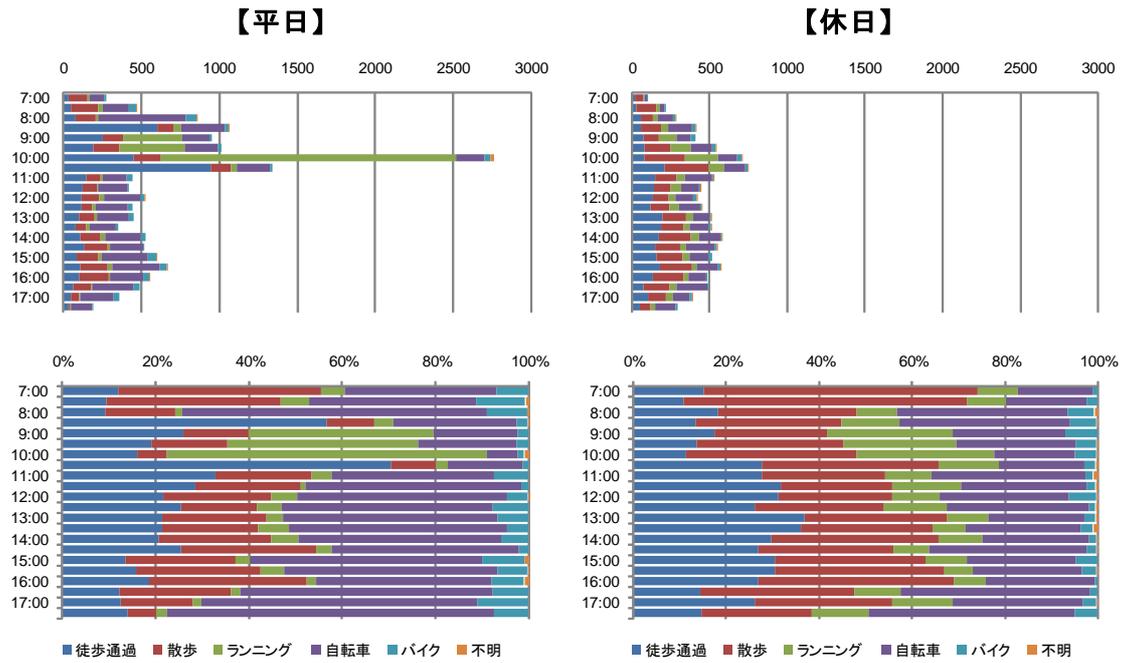
図IV-4 年齢階層別カウント数

④交通手段

平日利用者では、小中学生の団体利用の目的が「ランニング」であったことから、8 時台後半から 10 時台後半にかけての時間帯で、ランニング利用者の数値が大きくカウントされる結果となった。その他の交通手段としては、自転車利用が各時間帯を通じて高い割合を占めており、次いで徒歩通過、散歩の順となっている。

休日利用者では散歩の人数が最も多く、カウント数の約 1 / 3 を占めている。平日・休日を通じて、散歩の利用は早朝に高い割合となっている。





図IV-5 交通手段別カウント数

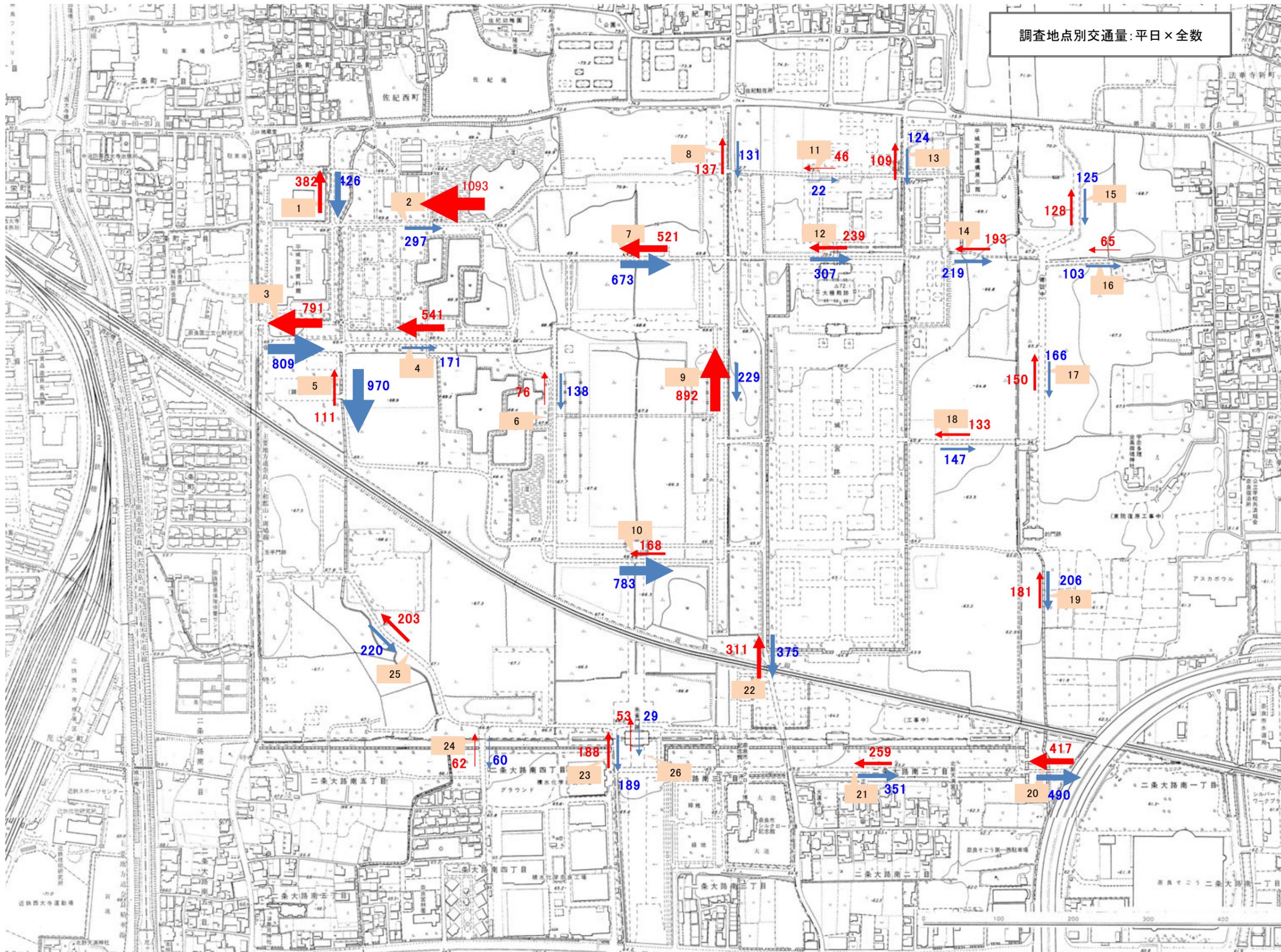
2-4) 主要園路交通量及び交通手段

①全体

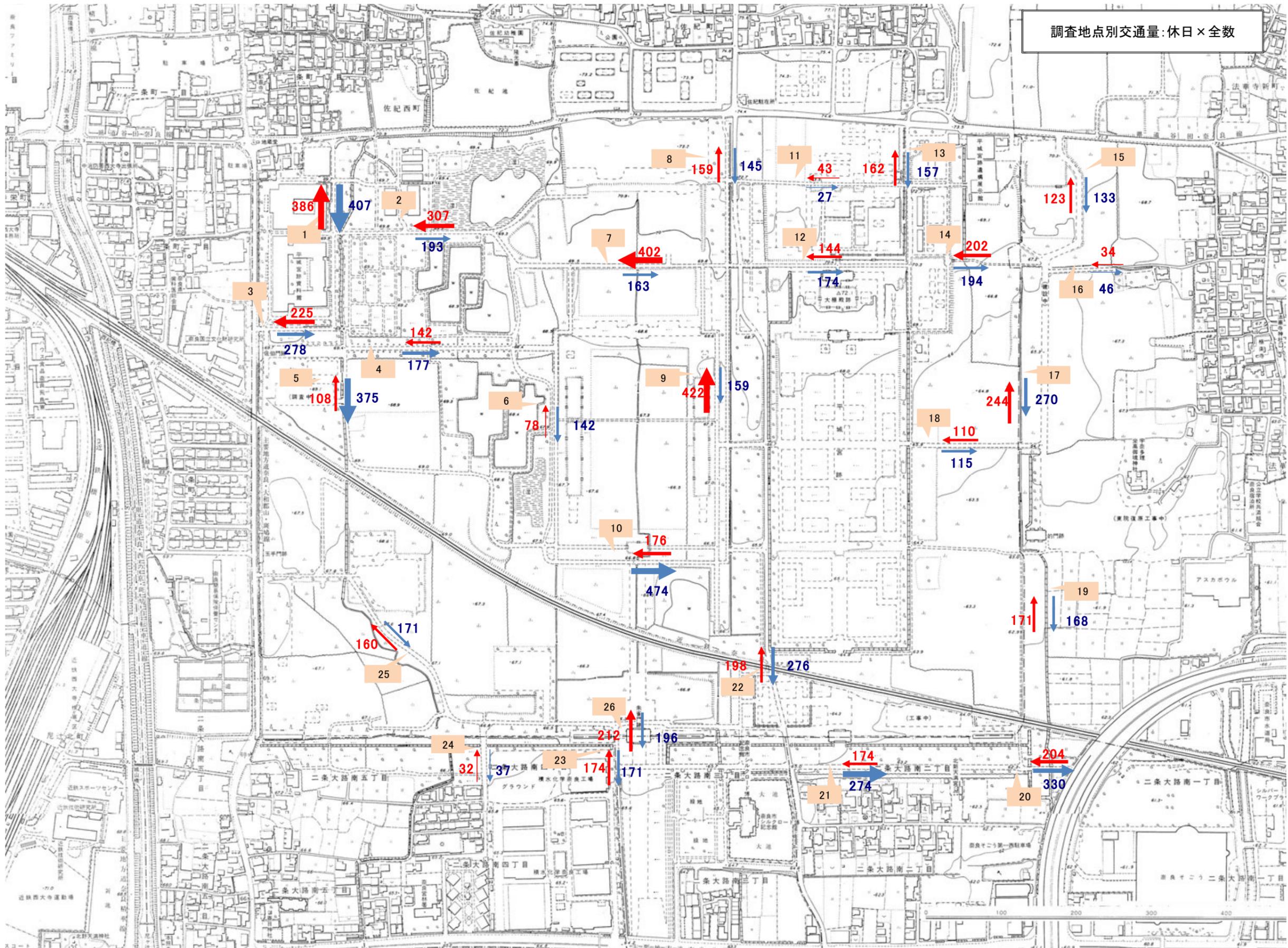
調査地点別交通量（全数）及び方向別交通量（全数）を、図IV-6～8に示す。本調査では、北または西方向へ向かうものを「上り」、南または東へ向かうものを「下り」とした（以下同じ）。

平日利用では、第一次大極殿南側から資料館東側をまっすぐ南下し第一次朝堂院の南・東側外周を回る周回コースが団体小学生のランニングコースとなったため、当該コース上の各地点（No. 2、5、7、9、10）の交通量が大きくカウントされる結果となった。また、No. 1（収蔵庫東）、No. 3（佐伯門）、No. 4（桜並木）の交通量にも、この団体利用者が含まれている。ランニングの利用の性格上、上りまたは下りの一方向に偏った利用形態となっている。

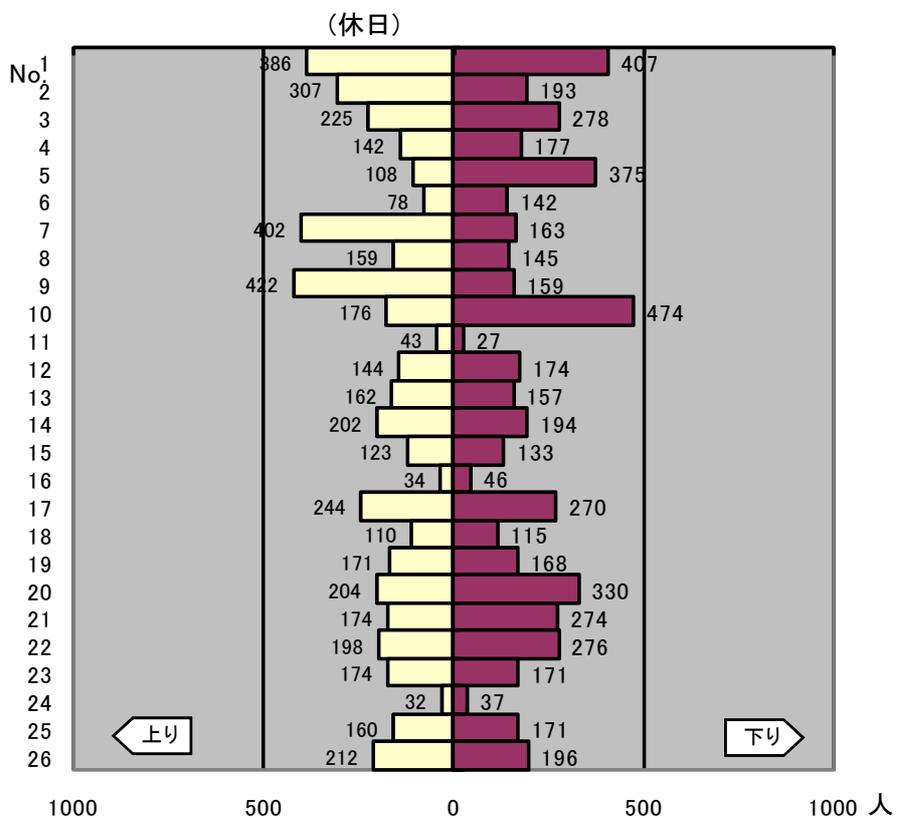
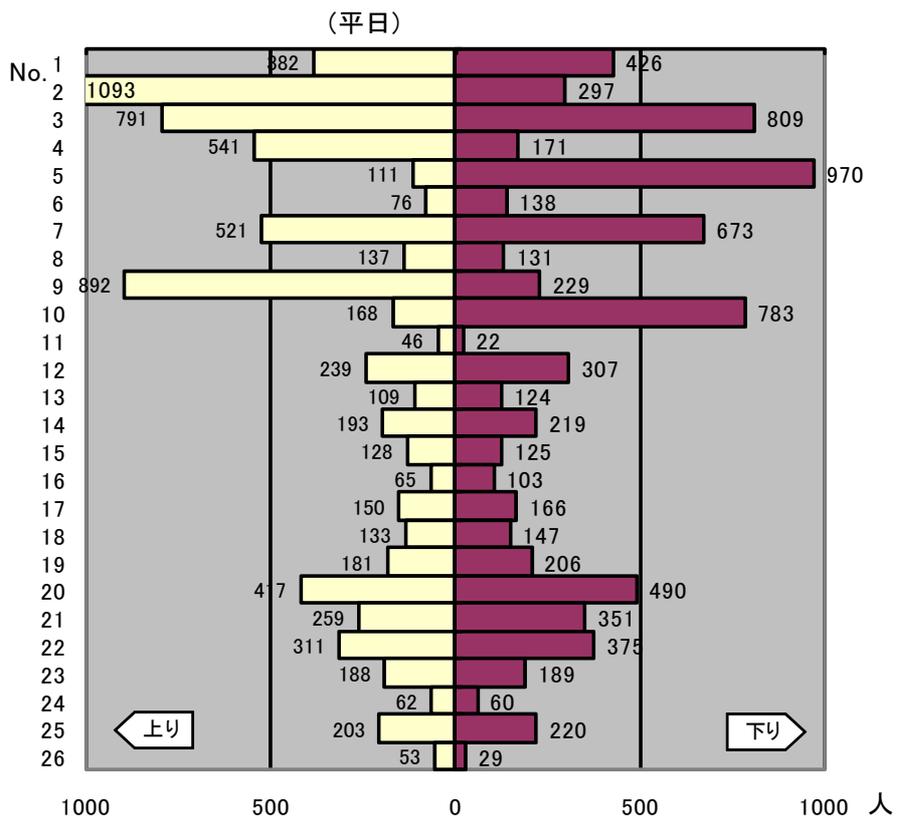
休日利用においても、上記周回コース上の各地点やその周辺でのカウント数は他の地点に比べて大きくなっており、全体的に利用が集中しやすいエリアとなっているものと考えられる。また、全体のカウント数が平日の2/3程度に留まったが、No. 8（みやと通北端）、No. 13（案内広場）、No. 17（宇奈多里神社東）といった地点ではカウント数の増加が見られた。また、No. 26（朱雀門）では、休日の交通量が平日を大きく上回った。



図IV-6 調査地点別交通量 (平日×全数)



図IV-7 調査地点別交通量 (休日×全数)



図IV-8 方向別カウント数 (全数)